

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	小学科・学年	教科書
				2 単位	全科・3 年	書道 I (書 I 308 光村)
副教材	使用なし					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現および鑑賞といった書道の幅広い活動を通し、書を愛好する心情を育成する。 ・書を楽しむ態度を通し感性を豊かにし、多様な場面に対応する書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸展、育成する。 					

評価の基準・観点				
関心・意欲・態度	芸術を理解する能力	表現する能力	鑑賞する能力	知識・理解
漢字仮名交じりの書および漢字の書を通して、書の美に関心をもち、書写能力を高め、生活に即した書表現を意欲的、主体的に理解できているかを評価する。	感性を豊かにし、漢字かな交じりの書、漢字の書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているかを評価する。	自己を主体的に表現する能力を伸ばし、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けているかを評価する。	書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わっているかを評価する。	文字の成り立ちから現在までの書の変遷を理解し、知識を身に付け、現代書にいかに応用するかを理解する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート、宿題等の状況 ・ 授業における態度、意欲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術の普遍性を理解 ・ 生活の中の書を調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品制作 ・ 臨書と做書への理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会での鑑賞 ・ 授業内での作品批評 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト
評価の方法	提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容、定期テストを中心に用具・用材を含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価する。			

学 習 の 内 容	
4 月	現代詩を書く <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいだみつお」の詩を書く ・ 各自が撰文した詩を書く
5 月	楷書ー中国唐時代の三大家の楷書を臨書する <ul style="list-style-type: none"> ・ 九成宮醴泉銘を臨書する ・ 孔子廟堂碑を臨書する
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雁塔聖教序を臨書する ・ 中国唐時代中期の顔真卿の楷書を臨書する (建中告身帖)
7 月	期末試験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国南北朝時代の楷書を書く (造像記・鄭義下碑)
8 月	夏休み調査ー「生活の中の書」特に新聞広告チラシ、看板、表札、石碑等に書かれている書をレポートする。
9 月	行書ー春日井が生誕伝説地である「小野道風」の行書 <ul style="list-style-type: none"> ・ 屏風土代
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書聖王羲之の行書を臨書する (蘭亭序)
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の書聖である空海の行書を臨書する (風信帖)
12 月	期末試験 冬休み調査ー「生活の中の書」特に新聞広告チラシ、看板、表札、石碑等に書かれている行書・草書をレポートする。
1 月	漢字仮名混じりの書 (現代詩を書く) <ul style="list-style-type: none"> ・ 校歌を書く ・ 元気のでる詩を各自で選び書く
2 月	学年末試験 実用文の練習 (毛筆・硬筆)
3 月	

担当者からのメッセージ及び特色
1、授業ー小中学校の書写では学習しなかった「漢字仮名交じり文」の学習から導入しますが、色々な書体を理解し、表現の幅を広げ書くことの喜びを育てていきます。 2、家庭ー街中にある古典を応用した看板等の文字をレポートし、それを討論の教材として、文字の理解を深めていきます。 3、補習ー希望者には、試験前に実技を含め実施します。 4、特色ー書道の学習では、「字が上手になる」ことが最終目的ではなく、古典の学習・鑑賞を含め豊かな情操を育て、表現する喜びを会得する事にあります。私と一緒に「書」を楽しみましょう。